

▶ 入学者選抜の方法 下記内容は予定であり、変更する場合があります。

募集人員
60名

一般入試(前期日程) 募集人員:35名

- 選抜の方法 入試センター試験(500点)と本学独自の試験(600点)の合計1,100点で判定します。
- 重点評価項目 「知識・理解」に重点を置いて「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」も評価します。

大学入試センター試験 (500点)	本学独自の試験(600点)	
	小論文(200点)	面接(400点)
4教科3科目合計500点で実施します。 ●国語(200点)、外国語(200点)は必須です。 ●残り1科目は、数学、地歴、公民、理科の4科目から1科目を自由に選択できます。(100点) これによって「知識・理解」について判定します。	「小論文」では地域社会の問題に関する課題文を読んだ上で、その論旨や受験者の見解を論述してもらい、「思考・判断」を評価します。	グループ面接(グループ単位で提示されたテーマについて討議やプレゼンを行う作業を含む)を実施することで「関心・意欲・態度」「技能・表現」について判定し本学部の教育に関する適性を評価します。出願書類として志願理由および高校までの体験等の振り返りを書いて頂き、面接の参考にします。

推薦入試 I 募集人員:10名

- 選抜の方法 出願資格として学校長の推薦(評定平均4.0以上、各校1名)を求めます。
- 重点評価項目 「教科外活動」と「関心・意欲・態度」に重点を置いて「思考・判断」「技能・表現」も評価します。

本学独自の試験(400点)		
グループ活動および振り返り演習適性試験(200点)	作文(100点)	面接(100点)
グループ活動(共同して所定時間内で行える作業や討論など)を行ってもらう、グループ活動中の行動特性や振り返り演習での役割などについて観察し、「技能・表現」の特にコミュニケーション力について判定します。	グループ活動および振り返り演習適性試験の内容に関して、文章を書いてもらい、「技能・表現」の特に書き言葉での表現力について判定します。	面接は、個人面接とし、志願理由書記載の志願理由を掘り下げ、本学部で学ぶ「関心・意欲・態度」、経験・技術(農業、水産、工業、商業、芸術・デザイン、スポーツ等)などについて確認すると共に、本学部の教育カリキュラムへの適性を判断します。

AO入試 I 募集人員:15名

- 選抜の方法 2段階選抜を実施します。1次試験の合格者は募集人員の2倍程度とします。
- 重点評価項目 「関心・意欲・態度」に重点を置いて「思考・判断」「技能・表現」も評価します。

本学独自の1次試験(200点)		本学独自の2次試験(300点)		
志願票(100点)	講義理解力試験(100点)	ゼミナール活動適性試験(100点)	作文(100点)	面接(100点)
所定の様式に、自分の行動体験についての分析、本学部への志望理由、出身地域の社会に対する分析を記入してもらい、主に「関心・意欲・態度」を判定します。	約90分の講義を聴いてもらい、それを前提とした小論文等の形式の筆記試験を行い、主に「思考・判断」について判定します。	休憩を含め3時間程度のグループディスカッション(指定テーマに基づくグループ討議、発表、質疑)を行ってもらい、「技能・表現」の特にコミュニケーション力を判定します。	ゼミナールの討議内容、チーム運営の仕方、自分と他のメンバーの役割などについての評価を文章にしてもらい、「技能・表現」の特に書き言葉での表現力について判定します。	志願票と2次試験の内容に基づく質問をグループ面接の形式で問い、3つの重点評価項目について総合的に判定します。

▶ 地域協働学部の入試日程

	一般入試(前期日程)	推薦入試 I	AO入試
学生募集要項配付	11月中旬	11月上旬	11月上旬
出願期間	1月26日(月)~2月4日(水)	11月18日(火)~11月21日(金)	11月25日(火)~11月27(木)
試験日	2月25日(水)~2月26日(木)	11月30日(日)	12月6日(土):1次試験 12月27日(土):2次試験
合格発表	3月7日(土)	12月10日(水)	12月15日(月):1次 1月13日(火):2次
入学手続期間	3月8日(日)~3月15日(日)	12月11日(木)~12月19日(金)	1月14日(水)~1月23日(金)

地域協働学部に関する
お問い合わせ先

国立大学法人 高知大学 法人企画課 新学部設置準備室 (担当:芝、高橋)
〒780-8520 高知市曙町2-5-1
TEL:088-888-8042 FAX:088-888-8043 E-mail: hj51@kochi-u.ac.jp
▶ 入試情報に関するお問い合わせ先は、こちら
学務部入試課入試実施係 TEL:088-844-8153 FAX:088-844-8147

高知大学 地域協働学部

Faculty of Regional Collaboration (設置認可申請中)

平成27年4月 学部設置予定

高知大学は平成27年4月の地域協働学部開設に向けて、文部科学省に設置認可申請中です。(平成26年6月現在)
平成26年11月に学生募集を開始する予定ですが、予定であり変更する場合があります。



「協働」を通じて、
地域社会の再生・発展に挑戦する
全国初の学部です。

日本の地域を変える新しい人材を育てます。

育てる人材像



4つの地域協働型産業人材

<p>6次産業化人</p>	<p>地域のヒト・モノ・企業をつなぐコーディネーター</p>	<p>地域をつなぐ行政リーダー</p>	<p>地域の暮らしと文化を支えるリーダー</p>
<p>農・林・漁業を活かした新ビジネスの起業家</p> <p>地産外商農家、アグリツーリズム・農家民宿等の起業</p>	<p>地域のヒトやモノを活かした新ビジネスを創る企業人材</p> <p>地場産業社員、商工会職員、地場産品デザイナー、金融機関社員など</p>	<p>住民・企業と協働して地域再生に取り組む行政マン</p> <p>県・市町村職員、国家公務員。具体的には、地域支援企画員など地域をつなぐ仕事をする</p>	<p>産業や行政と協働して生活を支える新規事業を創出する人材</p> <p>NPO職員、社会福祉協議会職員、地域づくり協力隊、コミュニティデザイナー、マスコミなど</p>

育成する能力

地域協働マネジメント力



地域協働マネジメントに必要な3つの力(地域理解力、企画立案力、協働実践力)を身につけた「地域協働型産業人材」を育てます。

- 地域理解力** 地域の産業及び生活・文化に関する専門知識を活用して、多様な地域の特性を理解し、資源を発見できる力
- 企画立案力** 課題を発見・分析し、解決するための方策を立案する力。また、その成果を客観的に評価する力
- 協働実践力** 多様な人や組織を巻き込み、互いの価値観を尊重しあいながら、参加者や社会にとっての新しい価値を生み出す活動をリードする力

卒業後の飛躍を支える

地域協働学部の3つの強み



1 いろんな人と会うことで広い視野が身につきます。

地域協働学部のカリキュラムでは、社会で実際にいろんな人と会う機会やいろんなことを体験する機会がたくさん設けられています。社会を構成する多様な価値観や文化、風習を、みなさん自身が実際に経験することで、リアリティを持って社会を捉えることができ、広い視野が身につきます。

2 繰り返し取り組むことで地域協働マネジメント力が身につきます。

地域協働学部のカリキュラムでは、「課題を発見し、解決するための方策を考え、実行し、その成果を次につなげる」取り組みを1年生次から繰り返し行います。4年間をかけて繰り返し本気で行うからこそ、社会が求める力と自信が身につきます。

3 社会で活躍する人々とのネットワークを創ることができます。

地域協働学部のカリキュラムでは、多様な価値観を持った人や組織を巻き込み、異なる価値観を認め合いながら、新しい価値を生み出すプロセスを実践的に学びます。みなさんの本気のチャレンジは、支援してくれる様々な人や組織とのつながりを生み出します。このつながりは、みなさんの将来をきりひらく力になります。



社会が求める新しい学問「地域協働学」を一緒に学ぼう

上田 健作

専任教員就任予定者／地域協働学部設置準備委員会委員長
担当予定科目：非営利組織マネジメント論



中山間地域の非営利組織(NPO)と一緒に、美しい景観を活かしたイベント等の事業によって地域おこしに取り組む傍ら、NPOの地域協働力を高める「NPO経営塾」を主催しています。

地域でシゴトを創る人になろう!

地域社会の再生・発展のために貢献したいと考えている高校生の皆さん。今、地域社会が一番欲しているのは「地域協働型産業人材」という新しい人材です。地域協働学部は、この人材を育成するために、日本で初めてのカリキュラムを準備しました。

「地域協働(コラボレーション)」とは、立場や価値観が異なる関係者を組織して、一緒に、課題を発見・分析・統合し、解決に立ち向かう方策を考え、実行する行動様式です。「地域協働型産業人材」は、この地域協働を活かして新しいビジネス(仕事)を創出することで地域の産業を振興できる人なのです。産業人材が、地域社会の再生・発展に不可欠であることは明らかでしょう。そもそも、地域で暮らし続けるには、生活を支える糧を得るためのシゴトが必要だからです。

地域再生のカギは「地域協働」

では、なぜ地域協働が必要なのでしょう。

今日、地域社会が抱える課題の多くは、もはや、人や組織が単独では解決できないものになっています。それゆえ、これらを解決するには、立場や価値観が異なる地域の人や組織が、多数集まって、様々な視点から課題を発見・分析し、その解決策を創り出す必要があります。また、地域産業を振興する新たなビジネスの創出も単独の企業では難しくなっています。例えば、コンビニエンスストアやゲームソフトなどの新ビジネスの成功は、全て異業種企業間の協働によって可能になったと言われています。このように、地域協働は、産業振興をはじめ、あらゆる地域課題の解決に不可欠なのです。

地域協働学を学ぼう!

しかし、立場や価値観の異なる人や組織が、自然発生的に協働するわけではありません。それらの人や組織を地域協働へと導き、それを運営するリーダーを必要としています。このリーダーが、身に付けるべき実践的学問が「地域協働学」、すなわち、地域協働に組織する原理と方法を実践的に研究する学問です。

みなさん。私たちと一緒に、この新しい学問を学び、地域社会の再生・発展に立ち向かいましょう。



地域に新しい風を! 尾崎 正直 高知県知事

今、地域では新たなことに果敢に挑戦しようとする志と、そのための知識や技術を持った人材が求められています。柔軟な発想を持つ学生のみなさんが地域に入り、そこで暮らす人々とともに考え、研究が行われることは、山積する地域課題の解決に向けた大きな一歩となることでしょう。産学官が協働して取り組むことにより、地域に新しい風を起こしましょう。

うみ・やま・むら・まちをフィールドに、地域協働を組織する力を育てます。

カリキュラムマップ

まちづくり、市街地活性化、地域防災、商品開発、社会的起業など地域協働を専門とする20名の専任教員による少人数教育をベースに、4年間継続的に地域に関わります。卒業に必要な単位の約40%にもなる実習科目・演習科目に加えて、「地域協働マネジメント分野」「地域産業分野」「地域生活分野」の3分野の専門科目を設置。個人の関心に合わせて、地域で活躍するための体系的な技能・知識・考え方を学びます。



人材育成プロセス

学年ごとの積み上げ型プログラムで「地域協働型産業人材」に必要な能力を着実に育成します。学年末の学習成果報告会(振り返り報告)では、企業経営者・社会的起業家・NPO職員など社会や地域の第一線で活躍する人たちのアドバイスをもらいながら、1年間の地域での学習成果を整理します。

養成される4人材

- 6次産業化人
- 地域のヒト・モノ・企業をつなぐコーディネーター
- 地域をつなぐ行政リーダー
- 地域の暮らしと文化を支えるリーダー

1年生からいろいろな演習や実習が用意されています!!

グローバルな視点から「地域」を考える

海外サービスラーニング(外国語特別演習、海外特別演習) 地域での活動に成果を挙げた学生を対象に、海外で地域との協働を体験するプログラムを予定しています。高知県と同じく、中山間地域の過疎化や災害対策が課題となっているイタリア・サルデーニャ島、農村のコミュニティ振興が注目されているタイ・ラヨーン県など海外のフィールドに、3週間滞在し、現地の大学生と共に地域との協働を実践します。

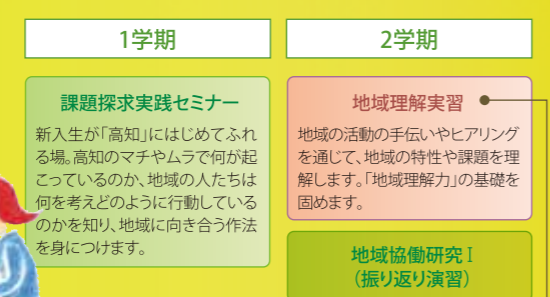
21世紀は「地域の時代」

Paola Rizzi イタリア・サッサリ大学教授 急速なグローバル化で世界中から多様性が失われています。社会を人間の手に取り戻すには、地域の誇りや文化を大切に、グローバル社会に組み込んでいく挑戦が必要です。地域協働学部の学生が高知とイタリアで「地域」との関わりの中で学び育つことを楽しみにしています。



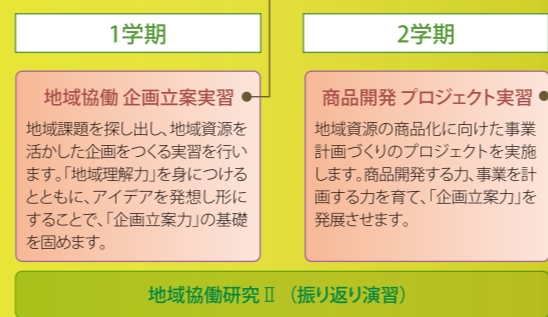
1 年次

目標 地域理解力を身につける



2 年次

目標 企画立案力を身につける



実習例



街路市出店者の手伝いとヒアリング 高知市・日曜日



実習例

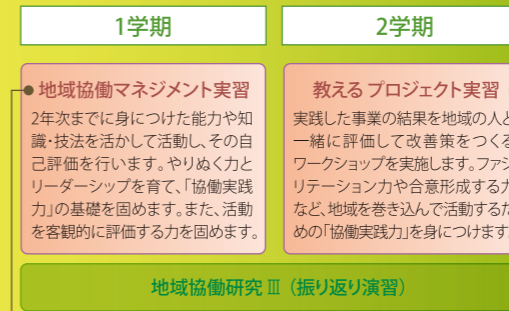


地域資源を活用した障害者雇用支援 黒潮町・社会的ベンチャー企業

学習成果報告会を経て、ステップアップ!!

目標 協働実践力を身につける

3 年次



学習成果報告会

実習例



地域おこしに向けた 住民の合意形成支援 香南市・西川地区

実習例



地産外産商品販売事業の実施・評価 高知市・地場セレクトショップ

実習例



伝統の祭りを活かした 観光プラン開発 仁淀川町・長者地区

目標

地域協働 マネジメント力の統合・深化

地域協働実践・卒業研究
 四年間の学びを統合し、地域協働の実践事例を理論化します。これをもとに、卒業後「地域を変える新しいリーダー」としてどのように地域に関わるのか、将来展望を描きます。

地域を変える新しいリーダーとして高知から日本を変えよう!!



学びの積み上げ

高知発・未来のカタチを ともに創る仲間を募集します。

教員からの応援メッセージ

地域協働で「答えを創る力」を養おう

石筒 寛 専任教員就任予定者 担当予定科目:地域産業政策論



高知市内の商店街や日曜市で、学生と一緒にまちの賑わいを取り戻す取組をしています。やま・うみ・むらとまちをつなげることで双方の活性化を目指しています。



地域協働学部には、2つの種類の「教室」があります。1つは、これまで慣れ親しんできた学校の中の教室です。そこには、机や椅子、黒板があり、たくさんの「授業」が行われます。もう1つは学校の外にあります。商店街、海のそばにある集落、山の中にある耕作放棄地。それぞれ固有の背景を持ち、高齢化、人口減少、津波にどう備えるかなど様々な課題を抱えています。そして、その課題に対する答えは1つではなかったり、まだ答えそのものが見つからないこともあります。地域協働学部では、その「答え創り」を地域の方々と一緒に行います。答え創りの方法には、農作業のお手伝いをする場合もあれば、地域でおばあちゃんたちが地道に作っていた豆腐の販売方法を考える場合もあります。そこでは「活動の幅の広さ」と「時間をかけたかかわりの深さ」が大切であり、中と外の「教室」を何度も行ったり来たりしながら、観察力や分析力をはじめ、種々の「答えを創る力」を鍛えていきます。

社会的起業で、協働する人たちの想いを形にしよう

藤岡 正樹 専任教員就任予定者 担当予定科目:地域防災論



災害から人を救うためには、わかりやすく実感してもらうことが必要と考えて、起業し、ゲームソフトを創りました。気がつけば被災地支援や、住民ワークショップに走り回る日々です。



小さな想いを実現しようとしても、たちまち一人では不可能であることに気づきます。ふと周りを見渡すと同じ価値観や方向性を持っている人がたくさんいる。社会的起業は「一緒にやりませんか」と声に出すことから始まります。任天堂ゲームソフト「地震DS72時間」の開発と発売では、社会的意識の高い広告代理店のプロデューサーが「開発会社・問屋・販売会社・メーカー」をつないでくれました。東日本大震災時には、物流のプロと様々な技能を持った人たちが「物資を届ける」という一つの目的で動いてくれました。社会的起業とは、同じ想いで協働する人たちの想いを形にする具体的な方法です。我こそはというガッツのある学生さん、高知で待っています。

地域福祉に、協働で笑顔の花を咲かそう

玉里 恵美子 専任教員就任予定者 担当予定科目:地域福祉論



フィールドワークで訪れた高知県大豊町で運命の人に出会い、結婚しました。高齢化が進む高知の中山間地域で、高齢者を支えるための地域に根ざした仕組みづくりに取り組んでいます。



高知県は日本で三番目に高齢化率が高く、過疎化も進んでいます。けれども、中山間地域では多くの人が「ここに暮らし続けたい」と考えています。訪れた私たちも、そこが大好きになります。それは、なぜでしょうか。水や木などの自然がいかに大切かを地域が教えてくれるからです。そして、それらを守ってきた、たくましい人々の助け合う姿に出会うからです。中山間地域には暮らしや生活に関する課題が多くありますが、課題解決のためには地域福祉の視点が重要になってきます。地元の人々と協働して地域の課題を地域福祉の視点から考え、ともに実践することで、暮らし続けたい地域をつくり、みんなで助け合って笑顔の花を咲かせていきましょう。

入学者選抜の考え方

上記の内容は予定であり、変更する場合があります。

詳細は、11月上旬発表予定の学生募集要項をご覧ください。

入試の基本的な考え方

この学部では、本学の独自試験において、意欲・関心・適性・技能・表現を重視した入学者選抜を行います。専門的教育課程においては、実習とゼミナールとを重視したカリキュラムを用意しています。このような教育課程で学ぶには、入学時に一定の集団的行動、集団的学習や、学外の「おとな社会」とのコミュニケーションに適合する資質を持っていることが必要です。そのため、一般入試(前期日程)、推薦入試I、AO入試すべてに面接、小論文または作文を課し、人物重視の選抜方法を採用ことにしています。(募集人員等については、本リーフレットの最終ページをご参照ください。)

アドミッション・ポリシー

この学部では、地域理解力、企画立案力、協働実践力という3つの知識・能力を統合した地域協働マネジメント力を持った人材を養成しようと考えています。そのために、次のような資質を持った学生を募集します。

思考・判断

論理的思考力と理性的判断力を持って物事に取り組むことが必要だと考えている学生であること。自らの行動や体験について深く見詰め直し、客観的に分析しようとしている学生であること。

関心・意欲・態度

地域社会に存在する諸問題とその実践的解決、特に地域産業の振興に関心があり、積極的に地域社会の人々と協働することを志向する学生であること。知に対する関心を持ち、豊かな教養に裏打ちされた能力で、課題の発見・探求とその解決にあたることを志向する学生であること。

知識・理解

入学までの過程で、理系・文系を問わず幅広い教科を積極的に学び、様々な問題に対する知識や関心を持っている学生であること。

技能・表現

自分の表現を客観的に見詰め、他者に伝える表現を心がけており、口頭と文章の両面にわたって充分な表現力を持ち、他者の意見を汲み取る力のある学生であること。

教科外活動

様々な行動体験を有しており、それらを自らのキャリア形成に活かすことを志向している学生であること。

一般入試(前期試験)への 面接等の導入

一般入試(前期試験)では、センター試験によって基礎学力を評価する他、本学の独自試験において「小論文」および「面接」を行います。「小論文」では地域社会の問題に関する課題文を読んだ上で、その論旨や受験者の見解を論述してもらい、「思考・判断」を評価します。「面接」では、簡単なグループ作業(討論や共同作業など)を行ってもらうことを含む、グループ面接を行います。グループ作業を含むというのは、受験者の協働人材の出発点となる資質——異なる視点を持った他者と協力して行動する資質——を確認するためです。また、この面接において、受験者の意欲・関心やこの学部の教育への適性を判断します。なお、面接で受験者の意欲・関心、この学部の教育への適性をより正確に判断するため、志願理由書を提出して頂きます。

推薦入試Iのグループ活動 および振り返り演習

推薦入試Iでは、「グループ活動および振り返り演習」、「作文」、「個人面接」の3つの課題を課します。「グループ活動および振り返り演習」では、短時間のグループ活動を行ってもらい、それを踏まえて、グループ内の運営やメンバーの果たした役割に関する成果と課題などについての振り返りを行います。「作文」では、グループワークの内容、運営、自己と他者の役割等に関する振り返りを文章にしてもらいます。「個人面接」では、受験者の意欲・関心やこの学部の教育への適性を判断します。また、面接で受験者の意欲・関心、この学部の教育への適性をより正確に判断するため、志願理由書を提出して頂きます。

AO入試Iの2段階選抜

AO入試Iでは、2段階選抜を行います。1次試験では、出願時に提出して頂く「志願票」と「講義理解力試験」の2つを評価します。「志願票」は、自分の行動体験についての分析、本学部への志望理由、出身地域の社会に対する分析などを記述して頂く予定です。「講義理解力試験」は、入学直後の学生に理解できる水準の講義を実施し、それに基づいて講義内容の要点や自分の見解を論述するなどの小論文的な論述試験を行い、「思考・判断」と文章での表現力を評価します。1次試験の合格者は募集人員の2倍程度を予定しています。2次試験では、「ゼミナール活動適性試験」、「作文」、「グループ面接」の3つの課題を課します。「ゼミナール活動適性試験」では、グループワークでの受験者のふるまい(発言、傾聴、行動、発表、質問等)を試験官が観察し採点します。「作文」では、グループワークの内容、運営、自己と他者の役割等に関する振り返りを文章にしてもらいます。「グループ面接」では、受験者の意欲・関心やこの学部の教育への適性を判断します。

入学者選抜試験の詳細(配点・日程等)は、
本リーフレットの最終ページをご覧ください。